

## 障害児に 抽象的概念の言葉を無意識に使っていませんか

ある障害児デイサービスのスタッフから、次のようなエピソードを聞いた。

母親から頼まれた品の買い物を企画・実施した折、自閉症のある子どもはプラゴミ袋の母親の「赤の中」と書いたメモ書きを見ながら「赤（あか）の中（なか）、ください」と店員に言ったとか。

我々はゴミ袋には「大、中、小」があることを知っているから「中（ちゅう）」と言っている訳で、日頃「中」の漢字を「なか」と教えられている子どもがメモ書きの「中」を「なか」と読んだのは間違いではない。

（ちゅう）を使うには、「大より小さい、小より大きい」というような抽象的な比較概念思考が必要な難しいこと。

また、他の障害児デイサービスのスタッフから、次のようなエピソードも聞いたことがある。

「僕、ちゃんとする！」とよく言う子どもがいるとか。

母親は、「ちゃんとする！って言ってて、全然しないんですよね。朝の支度もしないし・・・」と呟いているよう。

この子は言葉は覚えて言うものの、「ちゃんとする」という抽象的な言葉の概念を理解していないと思われる。

これらの事例等から、我々（親、教師、保育士、等々）は、日頃、子どもに教えたい知識、しつけないことを教えようとする時の話しかけや説明の言葉に、抽象的な概念の言葉を無意識に多く使っていないだろうか。

子どもを混乱させているのは、日頃の話しかけが子どもに受信されていないということかも。

自閉症の我が子を育てたある母親の次の言葉を思い出す。

【 できないという前にどのようにしたら分かるのだろうか、分かるような教え方を考えました。

それが具体的、視覚的、肯定的なかかわり方なのです。

パニック、他害、自傷というのは、もしかすると本人が不適切な支援を受けて不安とストレスで起こった障がいではないかと。

もし、パニックや他害、自傷を彼（我が子）に起させようと思えばすぐできます。

具体的ではなく抽象的に言い、視覚的な手立てを一切せず、全部言葉で言い、肯定的ではなく否定的な言葉を言い続けたら、一ヶ月もたたないうちにパニックや他害、自傷を起こすだろうと思います。 】【

漢字や言葉一つにしても、我々の話しかける言葉を子どもはどう受信しているかを意識しつつ話しかけているかを、その子どもに係わる関係者が互いに検証し合う場が必要な気がする。